

—四日市市—

緑地でのスポーツ施設整備について

1. はじめに

四日市市は、三重県の北部に位置し、西は鈴鹿山系、東は伊勢湾に面した温暖な地域であり、早くから四日市港を中心に商業、工業の都市として栄えてきた。昭和30年代からは、石油化学工業の進出が、大気汚染等の公害をもたらしたが、今では市民や企業、行政が環境浄化に努力し、自然との調和を目指したまちづくりにまい進している。

ここでは、これまでの歴史の中で、臨海部の工場地帯と市街地の間に建設された緩衝緑地を、新たな市民の憩いや健康づくりの場として再編するスポーツ施設整備について紹介させていただく。

2. 整備の概要について

整備を行っている緑地は、中央緑地（面積28.5ha）霞ヶ浦緑地（面積27.5ha）の二つの緑地である。

両緑地には、これまででもスポーツ施設が立地していたが、施設の老朽化に加え三重県では平成33年に「三重とこわか国体・三重とこわか大会」の開催が決定していることから、競技会場の整備を行うものであり、その概要は次のとおりである。

市中心部南に位置する中央緑地では、体育館（アリーナ面積3,220㎡・観客席約3,500席）1棟、サッカー場（JFA公認人工芝ピッチ3面・クラブハウス2棟）、弓道場1棟。また、市の東部沿岸部にある霞ヶ浦緑地では、テニスコート（ハードコート16面、うち屋根付きコート8面）とそのクラブハウス1棟、野球場1面を整備する計画であり、このうち、サッカー場は本年4月、テニスコートは5月にオープンし、7月に行われた全国高校総体の男子サッカーと硬式テニスの会場として早速使用された。

中央緑地施設は緑地を活かした「都市の中の自然域『グリーンフィールド』」のコンセプトで計画され、園路やトリムコースを配置することとしている。また、霞ヶ浦テニスコートは、同緑地内の既存施設「四日市ドーム」のテニスコート12面と近隣の公園にある14面とあわせ大規模な大会をスムーズに行え、多様なテニスシーンを牽引する施設となることが期待されている。

中央緑地の体育館では、オープン直後の平成32年5月に、東京オリンピックの事前キャンプ地としてカナダ体操チームの利用が決定するなど、オープンに向けた期待も高まっている。



整備が進む中央緑地（左端が建設中の体育館）



霞ヶ浦テニスコート

これら施設の整備とあわせ、駐車場などの周辺施設や公園施設等の改修も図っており、安全で快適な、より市民に親しまれる緑地となるよう取り組んでいく。

3. おわりに

現在、四日市市ではこうした施設整備を進めるとともに、シティプロモーションとしてコンビナートの夜景のPRや、市マスコットキャラクター「こにゅうどうくん」の『ゆるキャラグランプリ』一位獲得を目指す取り組みなどを進めている。ぜひ皆さんにも新しい施設や「こにゅうどうくん」に会いに来ていただきたい。



（四日市市 都市整備部 市街地整備・公園課 佐々木 邦彦）